北総の里

発行日　2014. 7. 22
第　228　号
（第１回発行 1974年４月１日）
発行所　北総育成園
千葉県香取郡東庄町
笹川い5852
☎　0478-86-3003
FAX 0478-86-3295

北総育成園のホームページが新しくなりました！

施設の概要や理念，利用者の様子，園長からのお知らせ等，盛りだくさん！ぜひアクセスしてみて下さい。

ホームページアドレス
http://www.hokuso-ikuseien.org/

Eメールアドレス
hokusoikuseien@e-sazankakai.or.jp

祝 創立40周年

須賀山城開山 野の花広場オープン！

東常縁の家系は、元をたどれば関東の豪族・千葉氏である（千葉県の県名はこの千葉氏に由来する）。源頼朝が「わが父も同然」と頼った千葉常胤の六男・胤頼が現在の千葉県香取郡一帯をもらって東氏を名乗る。二代重胤は、三代将軍・実朝の近侍で歌の師でもある。承久の乱の戦功で美濃郡上八幡を加領された東氏は拠点を郡上に移し、以後十一代約三百四十年にわたり郡上の領主であり続けた。…常縁は郡上東氏の九代目にあたる。1400年代の初めに生まれ、文明16年（1484）年頃亡くなったと思われる。（朝日新聞／司馬遼太郎・街道を行くNo.46より）。

須賀山城址再生の原動力はこの人たち

東胤頼がこの地に須賀山城を築いたのは1190年のこと。鎌倉幕府成立は1192年。源頼朝の鎌倉幕府成立にこの須賀山城主・東胤頼が関わっていたとは…。その後、須賀山城は城としての役割を終え、空堀、土塁、廓等の縄張りは下総大地の自然の懐の中に姿を隠し、〝昔の光今何処〟。遥か千年の時が行き過ぎた。

ご縁あって、当園がこの地にお世話になって40年。地主さんの了解を得、地域の皆様への万分の一の恩返しと思って取り掛かった須賀山城址再生事業。そんな由緒ある城址整備に巡り合えたことは当園にとって本当に幸せなこと。が、いざ手を出してみると篠竹ジャングルはなかなか手強く、途中何回も「これは無理かな」と音を上げかけた。めげないで何とか継続出来たのはこの人たち（利用者）がよく手伝ってくれたこと。この人たちは草刈機をぶんまわして篠竹を切る技術は持たない。しかし、切った篠竹を決まった場所に運ぶことは得意だ。丁度、昔、稲刈りした稲束を運ぶ子供たちの役割に似ている。「えらいなー」「たすかるよ」と感謝の言葉を掛けると、言葉の無いこの人は笑顔で切った篠竹を飛ぶように走って運んでくれる。普段お客さまのこの人が見違えるような働きぶりだ。この篠竹運び仕事を我々職員がやっていたら、多分、ギブアップしていたことだろう。一年間、本当に根気強くやり続けてくれた。須賀山城址再生はこの人たちを抜きには語れない。無心に切った篠竹を運び続けてくれたご褒美は時々の〝なずな工房〟のあんぱん。今回の須賀山城址再生の主役はこの人たちであったこと。そのことを地域の皆さんにお伝えしたかった。

そして、日改め5月24日（土）。〝須賀山城址開山〟その日が来た。整備された空堀・土塁・本丸広場。眼下に桁沼水田も見て取れる。朝からの五月晴れ。本丸中心点に東氏の家紋の幟り旗が翻る。

当日、岩田町長さん、髙島町議会議長さんが顔を出してくれた。思いも掛けず約200名以上の地域の皆さんが馳せ参じてくれた。午前11時、須賀山城開山。登城開始。本丸広場まで約10分。岩田町長さんを先頭に、紙で作った兜を被ってまるで東氏一行が須賀山城に凱旋登城するような何とも言えないいい気持ち…。本当に幸せな一日が過ぎていく…。（武井）

▶切り払った木々（篠竹）を一生懸命に運ぶ利用者。皆本当に頑張ってくれた。（H26・5・8）

祝！須賀山城址開山・野の花広場祭り

◆地域福祉の拠り所と恩返し

実行委員長　猪田　昌宏

去る5月24日（土）、須賀山城址開山・野の花広場祭りを開催し、地域の皆様をはじめ沢山の方々にご来場頂き無事終える事ができました。この行事は北総育成園創立40周年事業の一つとして、園長がこの地で40年お世話になった恩返しとなるよう須賀山城址の整備を発案した事に由来します。約1年（計30回）に及ぶ整備は本当に大変なものでした。篠竹に覆われたジャングルに何度もめげそうになりましたが、園長が整備の度にその〝攻め方〟を指揮し、須賀山城址整備の責任者である高木主任もそれに応えようと本当に粘り強く立ち向かい、そして林産班の利用者・職員をはじめ多くの人員を動員。今年度に入ってからは祭りの準備に向け連日のようにチェーンソーと草刈り機の轟音が鳴り響きました。そしてやっと約８００年ぶりに須賀山城の本丸テラスの全貌と土塁や空堀が姿を現しました。また同時進行で進めてきた非常時避難場所としての野の花広場の整備・公園化事業もお披露目できる目途が立ち〝地域福祉の拠り所と恩返し〟という思いがつまった須賀山城址開山・野の花広場祭りの開催に至りました。24日(土)当日は文句なしの快晴。午前の部のメインは須賀山登山と開山式。開山式には特別来賓として岩田町長、保存協力会の会長である平野さん、林町会議員はじめ多くの関係者にもご来場頂きました。岩田町長をはじめ地域の方々から「北総が埋もれていた須賀山城をここまで綺麗にしてくれた。ありがたいばかり。」というお褒めの言葉を頂戴しました。園長・福田村長・岩田町長・高島町議会議長・平野さんのテープカット。エイエイオーの掛け声と共に登山開始。北総・なずな工房・自然・特別来賓をはじめ地域の方々など２００人以上が大列を組み登っていく光景はすごいものでした。いよいよ登山者全員が蘇った須賀山城本丸に到着。園長による開山を祝してのお神酒と全員での万歳。はためく東氏参上のふきながしの下、しばし遥か昔のこの地の祖先を偲びました。午後のメイン会場は野の花広場。オープニングセレモニーに先駆け、会場入り口で野の花広場記念樹の植樹式を行いました。オープニングセレモニーでは園長より改めて須賀山城址と野の花広場を整備してきた経緯を説明。岩田町長・林議員、そして地域の方代表として土屋様より御挨拶頂きました。プログラムは北総からは北総芸座連の芸座メドレーと新どっこい一座による寸劇を披露。また、地域からゲストもお呼びし、花園真訪社中の皆様による舞踊では、さざんか祭りでも恒例であった〝きよしのズンドコ節〟を利用者を巻き込み披露して下さいました。続いて地元大木戸芸座連の皆様による芸座演奏。北総芸座連の発足以来、大変お世話になってきた大木戸芸座連の皆様。今回は小若芸座連を中心に約30名近い方が出演して下さり、会場に、祭り囃子を轟かせてくれました。最後は新どっこい一座によるおなじみの〝水戸黄門〟。黄門様ご一行に須賀山城主である東胤頼も登場した脚本で少ない練習時間ではありましたが客席を笑わせたドタバタ劇の北総らしい大衆演劇になったと思います。新棟建設工事や既存棟改修工事の為、平成22年度の北総の夕べ以来、近年実施を見合わせてきた地域向け行事ですが、園長が話す〝守っていては城はもたぬ〟という言葉の象徴が地域向け行事だと思います。北総に入職し大きな行事をまだ経験した事がない若い職員にとっても良い刺激となりものすごい勉強になった事と思います。須賀山城址もまだまだ整備段階であり、野の花広場も同様であります。園長が40年つくり上げてきた地域との信頼関係を、この須賀山城址・野の花広場を通して更に深いものになるようにこれからも努力していかなければならないと改めて思います。

▲大勢の地域の方で賑わった野の花広場。ステージでは北総の芸座披露。（H26. 5.24）

当日、開山祭りにご参加下さった地域の皆様から喜びの伝言

◆須賀山城址開山を祝して

城址保存協力会会長　平野　剛

北総育成園様創立40周年、須賀山城址開山祭り、野の花広場オープンおめでとう御座います。私も開園以来40年近くお世話になり、また御招き頂き有難う御座います。千葉宗家からこの地に東家を興し城を築いて、凡そ千年近く過ぎ城の再興を願う志が相通じる式典が行われる事をお慶び致します。

5月24日は素晴らしい好天に恵まれ開山式に相応しい日でありました。式典は須賀山城址入口のテープカットに町長さん園長さんらの5人の中へ私も参加させて頂き有難う御座いました。式典後、道巾の狭い山道を登ると城址であった広場があり入口に町が建てた案内板の側に、真新しい木製の「須賀山城址」と大書された看板が建てられ、広場の中心には丸太製土台に高さ6m位の竹竿に、長さ4m位「千葉氏」家紋の九曜紋入りの流し旗がはためく素晴らしい光景が待っていた。ここは一年程前まで人も寄せ付けない、人の背丈を越す鬱蒼とした雑草地であった。武井先生始め施設の職員の方々、園生の皆様と荒廃した広大な場所を雑草刈り、片付けに取り組んでくれた皆さんの汗と涙、そして山頂広場に集まった皆さんが叫んだ「万歳三唱」の大きな声は山中に響いた。この様な城址に訪れる多くの城ファンの人達が抱いている城址に対する「ロマン」を感じた。山道を歩きながら多くの皆さんにもう一度心の中で万歳と「有難う御座います」と山を下りた。この様なセレモニーを行って頂いたことは生涯忘れることの出来ない一日でありました。

◆北総育成園のみなさん　ありがとう

城址保存協力会　林　俊之

「40周年須賀山城址開山、野の花広場祭り」の当日、私はうれしくてたまらない1日を過ごさせていただきました。郷土史の会報に、東氏・須賀山城を中心とした歴史を探究する物語を書き始めて3年になります。千葉一族・東氏の歴史は、東庄町が全国に発信できる貴重な歴史であり、須賀山城は800年の昔、東氏の中心地でした。

郷土史のみなさんと何とか須賀山城址跡を、再生出来ないものかと思いましたが、困難な伐採作業のため断念せざるを得ませんでした。そんな時、昨年から北総育成園のみなさんで、伐採に取り組んでいただき城址跡が再生されていきました。私は東庄町議会を通して、町に北総育成園のみなさんのがんばりを伝え、協力をお願いしましたが満足な結果が得られず申し訳なく思っていました。

それでも明るく元気に伐採作業を続けてくださったみなさんに、感謝の気持ちでいっぱいです。みなさんの姿が、800年の昔の東氏の方々の姿に重なり輝いて見えました。東氏の方々もびっくりの、立派な姿での開山、入城だったと思います。須賀山城址跡が、たくさんのみなさんに親しまれ、憩いの場所となりますよう、私もがんばります。北総育成園のみなさん、これからもよろしくお願いします。いつまでも、お元気でご活躍ください。

◆須賀山城址開山を観覧して

東庄郷土史研究会　土屋　清實

須賀山城址にはとても入れない程、篠竹や草木が茂っていました。そこを北総育成園の皆さんが力を合わせ、全部刈り取り清々しくして下さいました。心から感謝しております。

北総育成園様創立40周年の記念事業として「須賀山城址開山祭り」が実施されました。当日早く私は城址に上り、知人や他の人達も来て、そのうち、かけ声も大きく関係者や来訪者達大勢が上がってきました。広々とした城址に大勢が寄りそい、育成園の人を中心にして祈り万歳に、拍手にと明るい雰囲気でした。

帰途、育成園の人達の着衣の背に、「風林火山」と染めてあるのが、目に入りました。

武井園長さんが傍におられたので、うかがってみると園長さんのご先祖は、信濃（長野県）の武田信玄の配下で、軍旗に「風林火山」と記した事を知りました。ー速き事風の如く、静かなる事林の如く、侵略する事火の如く、動かざる事山の如し、という意味。出典は中国の書「孫子」と辞典にあります。

須賀山城は千葉氏系統の東胤頼（とうのたねより）が、1190年に築きました。胤頼は源頼朝の鎌倉幕府創立に大きく貢献しました。

園長さんのご縁で戦国の世の両雄に、想いを馳せ、午後は、なずな工房の広場で皆、なごやかに過ごしました。北総育成園の一層のご発展を祈念致しますと共に、皆さんのお心遣いに厚くお礼申し上げます。

祝 創立40周年

林産班どくだみ採り

■林産班チーフ　菅谷大輔

毎年、6月の北総はどくだみ採りで、一色になる。今年もその6月に踏み込んだ。毎年悩みの種になるのがどくだみ群生地を探す事。一日ボランティアさんが入っても採るのに問題ない場所を見つけるのが林産班職員の仕事。

昨今、山を手入れする方も減り、野山は荒れ放題。そんな中、毎年何とか探しあてたが、今年はどくだみの神様が見てくれていたのかすばらしい群生地が見つかった。全園体制、明社ボランティア、保護者ボランティアの3大ドクダミ採りで採っても採り切れないほどであった。もう長い付き合いの船橋明社は朝7時には船橋を出て一日仕事。一緒に山に入ってドクダミを採るだけの仕事と言うなかれ、ボランティアに支えられ、この人たちと仕事をする事がこの人たちを大事にできる職員も育てられる場なのだと感じながら今年もどくだみ採りが進んだ。

■ドクダミ採り　加茂　聖也

今年度で3回目のドクダミ採り。今回はドクダミ採りの流れもわかっていたので、先輩職員から言われる前に自分で気づいて動く事を意識して行いました。林産班の利用者は弱音を吐かず本当によく頑張っていました。今回のドクダミ採りはすべて橋公園で行いましたが、山の登り下りがなかなか大変で滑りやすく、ドクダミを運ぶ利用者は大変だったと思いますが、手を休める人はいなく、黙々と行っていました。毎年行っているドクダミ採りですので、利用者の方々も気を張ってやっているのだなと感じました。そんな利用者の頑張りを無駄にしない為にも昨年以上にドクダミの売り上げを伸ばして付加価値をつけてあげなければいけないと思います。また、船橋明社、保護者と、利用者以外の方達と仕事をする事は、普段よりも緊張感を持って仕事をするので、非常に勉強になりました。職員のドクダミ供出でも、お忙しい中たくさんのドクダミをありがとうございました。

■林　直子

どくだみの
葉っぱの形は　ハート型♥
何故採るか？
そこにどくだみ　ある限り☆
しばらくは
毎日どくだみ　見るだろう
（心の声）

6月11日、明るい社会づくり船橋市推進委員会の皆様が来園されて林産班のドクダミ採り、農耕班のらっきょう加工を手伝って頂きました。ご感想を紹介します。

■ドクダミ採り

明るい社会づくり船橋市推進委員会　伊藤　佳央

今日は、北総育成園へボランティアの日です。鈴木壮年部長の車が家にこられ、次に土谷さん御夫婦と真田さんと共に車にゆられました。定時に出発し、北総育成園に到着しました。お茶をのみ一休み後、園のマイクロバスで山田町方面の山地のどくだみ採りに入りました。空模様はいつ雨がふってもいいような天気でした。どくだみは173束あり量も多く皆さん喜んでおりました。

昼食は笹川記念館センターで、育成園の調理師手作りの韓国料理「プルコギ丼」「トッポギ」「クルミ万頭」「果物」「キムチ漬」とどれも素晴らしい味でおいしく頂きました。

昼食後、園にもどり、どくだみを束ね、輪ゴムでしっかり止める作業を1時間ほどみっちりやり、まだかなりの量が残っていましたが、おみやげを買う時間をつくってくれました。

園長さんより、明るい社会づくり船橋市推進委員会へ30年間のボランティアを感謝して、感謝状並びに記念品をいただきました。誠にありがとうございます。

園長さん、先生、園の皆様に見送られて、園を出発しました。急に雨がどしゃぶりとなり、車中ではうつらうつら居眠りをしながら無事帰着することが出来ました。

最後になりますが北総育成園の皆様、今日一日御一緒させて頂いた皆さん本当にありがとうございました。

何度も同じ事を書きますが船橋市明社の皆さんは三十年以上、北総ボランティアを継続してくれています。これはなかなか出来ないことであり本当に心からそのご厚情に感謝するものです。ありがとうございます。又これからもどうかお力をお貸しください。（武井）

感　謝　状

明るい社会づくり船橋市推進委員会様

貴団体は三十有余年の永きにわたり当園作業ボランティアとして利用者の幸せの為にご尽力下さいました。特に毎年6月、香取山中に分け入り雨と汗にまみれながらどくだみ採りを継続下さったご厚情を忘れることはありません。よって、当園創立四十周年に当たり本状を並びに記念品を贈り感謝の意を表します。

平成二十六年六月吉日

社会福祉法人さざんか会　北総育成園
園長　武井敏朗

▲長年に渡りボランティアとして北総を支えてくださった明るい社会づくり船橋市推進委員会の方と記念撮影。（H26. 6.11）

■高橋　洋子

私は六年続けて北総育成園に行かせて頂いております。今年は久しぶりにどくだみ採りに杉林の中に入り、成長したどくだみを刈り取り、良いお茶になる様にと心に念じて、そして園の先生方をはじめ皆様が、心をひとつにして作業している様子はとても良かったと思います。

■山崎　宮子

どくだみ採りに参加させて頂き、ありがとうございました。園生と先生と、ボランティアさんが、自然の山の中で、うぐいすの声を聞きながら、無心になって、どくだみを刈り、束ねたどくだみを道の所まで運ぶ園生、無口で仕事に没頭する姿に感動しました。又先生が園生に対応する姿に触れ、とてもやさしくわかりやすく勉強になりました。

■佐藤　彬・さえ子

私は二年程前に参加させて頂いておりますが、今年は主人と二人で初めて参加させて頂きました。主人は初めてであり、又腰痛もあり心配したのですが、白いどくだみの花をみたら、実家の庭に一杯咲いていたのを思い出し、一生懸命になれたそうです。丁度刈りやすく子供の頃を思い出し、楽しくできたそうです。園の方々のお心遣いがうれしく、皆さんも頑張っておられるのを見させて頂き、おいしそうな野菜のおみやげを頂いて帰り、又来年も元気で来られたらいいネと、話しました。今回参加させて頂いて有難うございました。

農耕班らっきょう加工

■肥沼　恵子

園のみなさんはなんて心がきれいで、たのしく仕事をしている姿を見て、私の孫がこのような仕事についてくれたら、うれしく思います。

■村岡　法子

北総の里へ、初めて参加させて頂きました。

緑に囲まれた、気持ちの良い環境の中で、らっきょうの皮むきをさせて頂きました。

先生をはじめ、皆様の温かい心にほだされて、良い一日を過ごさせて頂き、ありがとうございました。

■土谷　民子

私達、らっきょう班7名は、らっきょうのヘタを取り、皮をむく仕事で、包丁でトントントンのリズム、ウグイスの鳴き声、手についたらっきょうのにおいもなんのその、帰りはおみやげをどっさり買って帰路につきました。

6月17日、保護者の皆様に御協力を頂きドクダミ採りを行いました。参加された保護者の感想を紹介します。

■田中　稔（田中芳雄さん 兄）

今日は北総育成園において30回以上となるであろう保護者が手伝うどくだみ採りの日。私は朝が弱いので前日に参り泊めて頂きました。どくだみ採りに向かうバスが到着すると、本日一緒にどくだみ採りに参加する沖縄県宜野湾市蒼生学園の川平先生、佐和田先生の紹介がありました。バスに全員乗り込み第一陣が出発。車内では川平先生、佐和田先生も会話に加わり良い雰囲気で、旧山田町橘ふれあい公園近くのどくだみ採り場に到着。職員が入口でカゴや鎌、紐等どくだみ採りに必要な用品を手渡してくれ、それぞれ山道に分け入りました。私は細く滑りやすい山道を奥に入り二段ほど降りた場所へ。私は先人の動作を見てどくだみ採りの方法を覚え体得しました。天気は入梅中とは思えない程良い天気で湿気も少なく恵まれた一日です。十時頃にジュースと菓子が配られ頂き一休み。そしてまたどくだみ採り再開。昼食は歩いて近くの橘ふれあい公園へ移動。今日は韓国弁当という事でキムチもあり飲み物まで韓国味。おいしく頂き午後も頑張れそうです。午後からは女性は束ね組に分かれ、男性は引き続きどくだみ採りに精を出しました。2時半過ぎにはバスに乗って帰園し、束ね組と合流。最後は全員で記念写真を撮りました。今日はこれで終わりと事務所に行ってお土産まで頂き、大変充実した一日でした。

▲ドクダミ採り、らっきょう加工を終えた。皆達成感に溢れた表情だ。園長の隣が沖縄よりドクダミ採りに参加して下さった蒼生学園の川平さん、その後が佐和田さん。（H26. 6.17）

■ドクダミ取りに参加して

濱野　和子（濱野元さん 母）

17日、18日は、お疲れ様でした。年に一度の行事ですが、天候、場所、ドクダミに恵まれ、束ねも終わりよかったです。

主人も、今年は、地下タビを買って、力の入れようが、ちがいました。恒例の韓国弁当も、楽しみで美味しく頂きました。沖縄からの、お客様お二人にも手伝っていただき、二日間、皆の話に付き合って下さり、もっと、いろいろお話を聞きたかったです。帰ったら疲れが、どっと出ませんように、ありがとうございました。きっと、今年のドクダミ茶は、とてもよい品が出来ると思います。

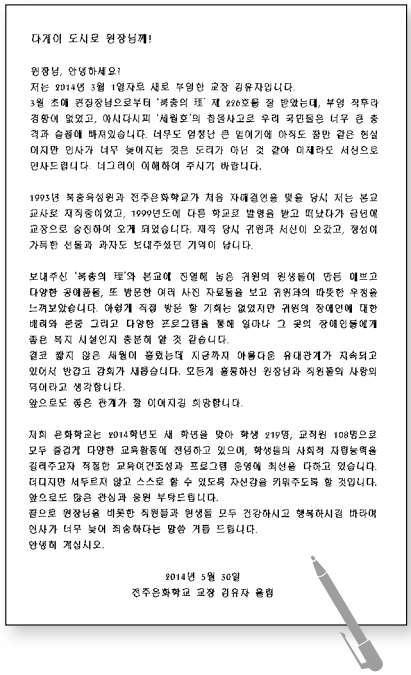
追伸

須賀山城開山祭りを、見に行きました。園生と、先生方の演劇は、最高でした。

街道をゆく ⑫⑥

韓国からのたより

韓国恩花学校と姉妹提携を結び今年で22年目となりました。実際に会う事はなかなかできませんが、広報紙の送付や季節ごとの挨拶を地道に継続し今日に至っています。毎年姉妹提携を結んだ6月16日を「韓国デー」とし、前後10日間を「韓国恩花デー週間」として、館内に韓流アイドルのポスターを飾ったり、皆で覚えた「アリランの歌」を放送したり、厨房手作りの韓国弁当を振る舞ったりとこの間は韓国の姉妹を思う大切な日々になります。そんな中、恩花学校の金校長先生からお便りを頂きましたのでご紹介します。



다게이 도시로 원장님께!

원장님, 안녕하세요?
저는 2014년 3월 1일자로 새로 부임한 교장 김유자입니다.
3월 초에 관광장님으로부터 '복충의 뜰' 제 226호를 잘 받았는데, 부임 직후라 경황이 없었고, 아시다시피 '세월호'의 참음사고로 우리 국민들은 너무 큰 충격과 슬픔에 빠져있습니다. 너무도 엄청난 큰 일이기에 아직도 꿈만 같은 현실이지만 인사가 너무 늦어지는 것은 도리가 아닌 것 같아 미세하도 서신으로 인사드립니다. 너그러이 이해하여 주시기 바랍니다.

1993년 복충육성원과 전주은화학교가 처음 자매결연을 맺을 당시 저는 본교 교사로 재직중이었고, 1999년도에 다른 학교로 발령을 받고 떠났다가 금년에 교장으로 승진하여 오게 되었습니다. 재직 당시 귀원과 서신이 오갔고, 정성이 가득한 선물과 과자도 보내주셨던 기억이 납니다.

보내주신 '복충의 뜰'와 본교에 진열해 놓은 귀원의 원생들이 만든 예쁘고 다양한 공예품들, 또 방문한 여러 사진 자료들을 보고 귀원과의 따뜻한 우정을 느껴보았습니다. 아쉽게 직접 방문 할 기회는 없었지만 귀원의 장애인에 대한 배려와 존중 그리고 다양한 프로그램을 통해 얼마나 그 곳의 장애인들에게 좋은 복지 시설인지 충분히 알 것 같습니다.
결코 짧지 않은 세월이 흘렀는데 지금까지 아름다운 유대관계가 지속되고 있어서 반갑고 감회가 새롭습니다. 모든게 훌륭하신 원장님과 직원들의 사랑의 덕이라고 생각합니다.
앞으로도 좋은 관계가 잘 이어지길 희망합니다.

지금 은화학교는 2014학년도 새 학년을 맞아 학생 219명, 교직원 108명으로 모두 즐겁게 다양한 교육활동에 전념하고 있으며, 학생들의 사회적 자립능력을 길러주고자 적절한 교육여건조성과 프로그램 운영에 최선을 다하고 있습니다. 더디지만 서두르지 않고 스스로 할 수 있도록 자신감을 키워주도록 할 것입니다.
앞으로도 많은 관심과 응원 부탁드립니다.
끝으로 원장님을 비롯한 직원들과 원생들 모두 건강하시고 행복하시길 바라며 인사가 너무 늦어 죄송하다는 말씀 거듭 드립니다.
안녕히 계셔시오.

2014년 5월 30일
전주은화학교 교장 김유자 올림

武井敏朗園長様

その間、お変わりなく実務に励んでいらっしゃる事嬉しく思います。私は2014年３月１日で赴任してまいりましたキムユザと申します。３月初めに北総の里広報紙が届きました。赴任直後ということもあってセウォル航の沈没事故から気持ちの余裕がなく夢のような現実に悲しんでおります。その中、返事が遅れてはいけないと思い恐れながらペンをとりました。

1993年北総育成園と恩花学校の姉妹提携を結ぶ時には恩花学校に在職しており北総育成園との関係をよく知っています。

その時の手紙のやり取りや真心がこもった品々を今も覚えています。

送ってくださった北総の里を含め利用者が心を込めて作ってくださった工芸品を拝見して温かい友情や生活が目に見えるように分かります。

決して短い歳月ではないこの間、恩花学校との交流を絶えず継続してくださった事に深くお礼を申し上げます。これからも良い関係が続く事を願っております。

我が恩花学校では新学期を迎えて、学生219名教職員108名の体制で教育に専念しており学生自身社会的自立能力を育てて見守り応援していきたいと思います。相変わらずのご支援のほどよろしくお願いします。

最後に園長先生を初め職員、利用者の方の健康と幸せを祈りご挨拶が遅れてしまったことを重ねてお詫び申し上げます。

2014年５月30日　　全州恩花学校校長　金　有子

太田川のほとり ⑫④

■北総育成園での研修を終えて

沖縄・蒼生学園　川平　兼次

この度は、ご無理な研修のお願いを快くお引き受けいただき、武井施設長はじめ職員の皆様にはお忙しい中ご配慮いただき感謝で一杯です。

森の中に入ると初めて見るどくだみの花でした。誇らしく咲いているように感じました。丁寧に長めのものから収穫していく。収穫が終われば束ねる作業、次に干す作業という工程でした。どくだみ作業を行い感じたことは、利用者、保護者、職員、一体となり見ていてとてもいい雰囲気でした。

なずな工房は、利用者それぞれ役割を黙々とこなし、プロ意識を感じました。

武井施設長からいろいろなお言葉を頂戴しましたが、その中からいくつか紹介します。人間関係をより良いものにするために、①顔を立てる（相手の考え方を認める）②立つ瀬を残す（いくら正論であっても逃げ道を残す必要がある）③折り合いをつける（お互いにある程度譲り合って納得できる妥協点を見出す）①～③のように冷静に接していけば誰とでも良い関係が築けると思いました。

施設の案内を丁寧にしてくださった白樫副園長ありがとうございました。利用者の表情が豊かで、いきいきと感じました。又利用者からどくだみ作業の件でお礼がありとてもうれしく感激しました。居室も見せてもらいましたが、花が一輪あるだけでこんなにも違うものかと居室担当職員の利用者への心配りを感じました。

武井施設長の明言「シーツのしわは伸ばせても、心のしわはのばせない」。シーツをきれいに敷くのも大切だが、それよりもその人に寄り添い、側にいてくれるだけでいい、安心できる職員でないと心は開かず「心のしわ」はのばせないという意味だと思いました。そういう職員で北総育成園は成り立っていると感じました。

学ぶことが多くありとても充実した3日間でした。ありがとうございました。

■研修を終えて

沖縄・美ら風　佐和田彩乃

6月19日から4日間、北総育成園様にて研修をさせて頂き、誠にありがとうございました。

初日、園へ到着後、施設長室へ案内して頂く間に、利用者の方々とあいさつを交わす事ができました。

翌日は、どくだみ収穫に参加させて頂きました。保護者の方々も、遠方より多く参加されており、改めて「どくだみ収穫」が重要なイベントなのだと感じました。沖縄出身の私にとって、

沖縄の心 ③

思い

蒼生学園施設長
砂川　好彦

１９９５年６月、沖縄戦終結50年の祈念事業に、沖縄の歴史と風土の中で培われた「平和のこころ」を広く内外に伝えようと、沖縄県立平和祈念公園敷地内に「平和の礎（いしじ）」が建設されました。その理念は１．沖縄戦（その期間は、米軍が慶良間諸島に上陸した45年３月26日から沖縄守備軍が降伏文書に調印した同年９月７日まで）で亡くなった20万余のすべての人々に追悼の意を表し、御霊を慰めるとともに、今日ある平和の尊さを再確認し、世界の恒久平和を祈念する。２．第２次世界大戦において、国内で唯一の住民を巻き込んだ地上戦の場となり、多くの尊い人命、財産を失った悲惨な戦争体験を風化させることなく、その教訓を後世に正しく伝えていく。３．記念碑のみの建設にとどめず、訪れる者に平和の尊さを感じさせ、安らぎと憩いをもたらす場とし、また子供たちの平和学習の場としての形成を目指す。であります。

「平和の礎」には、非宗教にして、国籍及び軍人、非軍人、男女を問わず沖縄戦で亡くなったすべての人々の氏名が刻まれています。沖縄県民については、全戦没者を対象としています。毎年追加刻銘され、２０１３年６月現在、２４１，２２７人となり、今年の６月にも54人の氏名が刻まれます。また記念碑は、よせる波の造形をしています。押し寄せる波が「わだつみの波動」となり世界の恒久平和につながるよう願いを込めています。

この悲惨な戦争を体験した（体験させられた）人々の証言が沖縄県平和祈念資料館で閲覧できます。暗闇の中で隣の死体を蝕む蛆虫のサクサクという音だけが響き、泥の中を這いずって逃げまわり見つけたガマ（自然洞窟で壕として活用された）には兵隊がいて「ここを反撃の拠点とする、民間人は入るな」と言われ、泣き叫ぶ赤子には「死の注射」が打たれた等の証言が続き、最も悲惨な集団自決へとつながっていきます。

こうした体験を語られる「語り部」もごくわずかになりました。学園の平和学習で「語り部」に話して頂いたことがありました。話し終え最後に静かな声で「ウンジュター、ウマファヤ、イクサンケエ、ヤラサンケーヤ、ヌチドウ、タカラドウ」（あなた方の子や孫を戦争に行かせるな、命は宝だよ）と言われました。命を大切に生きるんだよという意味です。

私が集会等に参加したのは祖国復帰運動を除き、２０１２年普天間飛行場へのオスプレイ配属に抗議する宜野湾市民大会の一回のみです。（返還が決まった飛行場に配属する事が理解出来なかったからです。）

６月23日は「慰霊の日」です。県内各地の記念碑で追悼式が行われます。「なずな」の合宿研もその意味で６月に開催しています。

多くの人々が、この沖縄の地に佇み自分の命を見つめてほしい。お互いの命の尊さを考えてほしい。20万人余りの命がなぜ失われたのかしっかり見つめてほしいと思います。

やはり長くなってしまいました。お任せします。証言の部分は簡単すぎて申し訳ありません、瀬いっぱいです。集団自決の証言は、私には、あまりにも悲惨で書けませんでした。

▲ 6/20 ～ 22 砂川先生が主宰する沖縄なずな合宿研に参加。平和の礎を訪ね、北総の皆で心を込めて折った千羽鶴を納めた。（H26. 6.22）

生まれて初めて見るどくだみ。カマを使って収穫とは、思ってもみませんでした。思いの他、重労働でしたが、とても貴重な体験ができました。利用者の方々もどくだみの葉を見分け、カマを使って収穫する方や、山道を何度も往復し運ぶ方と、それぞれが出来る事をそれぞれのペースで一生懸命に頑張る姿は、私の励みにもなりました。束ねられたどくだみを、バケツリレー方式で運ぶ利用者の方もいて、日頃の関係の良さを垣間見る事ができました。園にて行った、収穫したどくだみを束ねる作業で感じたのは、保護者の方々と、職員の方々との関係の良さです。利用者の方々との関係性はもちろんですが、保護者の方々とも本当に自然体。保護者の方が、お子さんの話だけでなく、自らの近況報告や世間話、昔の話等、様々な話を楽しむ光景はとても素敵で、羨ましく思いました。又、「あなた方と会えた事に感謝です」と言って下さった事で、武井施設長が、「言葉にする事で、よりコミュニケーションが良質になる」と話して下さった事が、実感へと成りました。

この様な学びの場を与えて下さった、武井施設長はじめ、北総育成園の職員、利用者の皆様、保護者の皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。またお会いできる日を、楽しみにしています。

村議会だより ⑭

北総開所時からの理念でもある“ 自分達の暮らしは自分達で作る ”という具体的な取り組みとなるのが「北総の里村議会」である。北総創立 40 周年を迎え今年度は第 42 回目の改選である。

５月８日の公示日には村長１名、議員７名の座をかけ、村長３名・村議員 12 名が名乗りを挙げ、投票日までの約一週間の選挙運動が始まった。

そして迎えた 15 日の投票日。投票前の立合演説では担任も力が入るところ。体を張って候補者を支援する職員もいれば、居室の仲間からの応援そしてユニット担任の垣根を越えての応援をもらっての演説など様々。今年度の有権者は 188 名と過去最多。ゆっくりと時間をかけ投票して約１時間。不安と緊張の中、いよいよ開票が始まった。まずは村長戦。

序盤から“ 福田 ”の名が挙げられ、中盤、終盤と盤石の流れで過半数近い 90 票を獲得。２年ぶりの返り咲きで北総 40 周年の村長に。昭和 49 年からの戦友、武井園長と福田さんが交わした握手が印象的であった。続いて会場が村長戦の興奮冷めやらぬ中、村議員の開票。こちらも最後の１票までわからない大混戦。結果、菅谷さん、堀川さん、齊藤敬さん、山本やさん、春日さん、田久保さん、石井さんが当選。９連続当選という大記録をかけ挑んだ池田さんが惜しくも 11 票で次点となった。途中不安になり投票箱を覗き込みにくるといった様子もあったが、池田さんとしてもやりきった表情であった。村長戦を含め残念ながら悔し涙を飲んだ７名はそれぞれに悔しがったり、少しうつむき気味であったりとそれぞれの表情を見せていた。投票日の夜も当落関係なく選挙にでた利用者は掃除にしっかり取り組んでくれていた。（菅谷）

選挙報告

第 42 期 北総の里村長は 福田克三さん

▲ 40 周年の顔決定！第 42 期北総の里村長は福田克三さん。第 42 期の北総の里　村長・村議員ここに誕生。向かって左より村長の福田さん。村議員の菅谷さん・堀川さん・齊藤（け）さん・山本（や）さん・春日さん・田久保さん・石井さん。

開 票 結 果

			年齢	村長当選回数	村議員当選回数
【村　長】					
当（元）90 票	福田　克三		64	5	5
次（現）60 票	大河原一男		57	1	4
（新）38 票	渡辺　庸一		55	0	8
【村議員】					
当（元）38 票	菅谷　行男		42	5	10
当（現）25 票	堀川　明美		42	2	15
当（新）22 票	齊藤　敬子		52	0	0
当（現）20 票	山本　泰三		72	1	8
当（現）15 票	春日　　孝		56	5	15
当（元）13 票	石井　武明		42	0	7
当（現）13 票	田久保　茂		57	0	6
次（現）11 票	池田　美奈		40	0	7
（元）10 票	猪瀬美佐子		38	0	1
（元）10 票	堀越　正明		10	0	12
（現）07 票	石毛　洋平		34	0	2
（現）04 票	花澤　利夫		34	0	2

編集後記

早いもので、今年度が始まってから早４ヶ月。私が所属する農耕班では玉ねぎ、じゃがいも、ラッキョウの収穫・加工と前半の山場を越え、夏野菜の収穫と手入れのシーズンとなりました。昨秋に植えた玉ねぎは順調に育ち４トン近い量が採れ、束ねと吊るしに追われました。

少しでも良い状態で売れるように干して保存するのですが、この作業が一苦労。玉ねぎの強い臭いと果てしなく感じる量との格闘です。農耕班の皆で力を合わせ、他班から応援を頂きながら、束ねては吊るしを繰り返し何とか全部干し終えました。私は三回目の収穫になるが、やはり大変さは変わらない。しかし利用者のＡさんがひたむきに取り組む姿に励まされ、後輩の頑張りに背中を押され、斉藤チーフに引っ張られながら自分自身を奮い立たせ玉ねぎに立ち向かいました。大きな仕事を終え、自然に鍛えられながらまた一つ利用者、農耕職員との絆が深まった気がする。この充実感がなんといっても農耕班の仕事の魅力だと感じる今日この頃です。（加瀬）